第67回（2023年度）　北海道開発技術研究発表会論文

留萌地域ツーリズム勉強会の取組
―地域における観光地域づくりを担う人材の育成―

留萌開発建設部　道路計画課　　○喜早　智
谷野　淳
岡本　純一

留萌開発建設部では平成30年度から、留萌管内の地域の魅力ある資源を活かした地域づくり及び交流人口の拡大方策を検討するため、産学官民が連携・協働した「留萌地域ツーリズム勉強会」を開催している。観光地域づくりやサイクルツーリズムをテーマの中心としており、令和4年度には増毛町にサイクルツーリズムの推進策を手交した。本稿ではこれまでの取組と今後の展望について紹介する。

キーワード：ツーリズム、観光、地域活性化、アウトドア、アドベンチャートラベル

1. はじめに

8市町村からなる留萌地域は暑寒別天売焼尻国定公園、天塩川、天売島、日本海オロロンラインなど、本格的かつ唯一無二のアウトドアフィールドを有している（図-1）。令和2年3月に高規格道路「深川留萌自動車道」が全線開通したことにより、本地域への道路アクセスが飛躍的に向上し、さらなる誘客への期待が高まっている。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響を境に観光分野においては、オープンエアかつ個人もしくは小規模な単位による旅行形態等へと転換が図られているところである。このような観光そのものをめぐる変化に対応しながら、留萌地域ならではのアウトドアフィールドのポテンシャルを最大限発揮させていくことが、この地域の観光地域づくりの方向性として重要な観点であると考える。

このような背景から、留萌地域の魅力ある資源を活かした地域づくり及び交流人口の拡大方策を検討するため、産学官民が連携・協働した「留萌地域ツーリズム勉強会」を平成30年度に設立した。“観光地域づくり”や“サイクルツーリズム”などに関心のある方であれば、行政職員、地域おこし協力隊、地域の方、どなたでも参加可能な勉強会を、これまでに計10回開催してきたところである。

本稿では、これまでの勉強会の取組や成果を紹介するとともに、今後の勉強会の展望について記す。

図-1 留萌地域におけるアウトドアフィールド

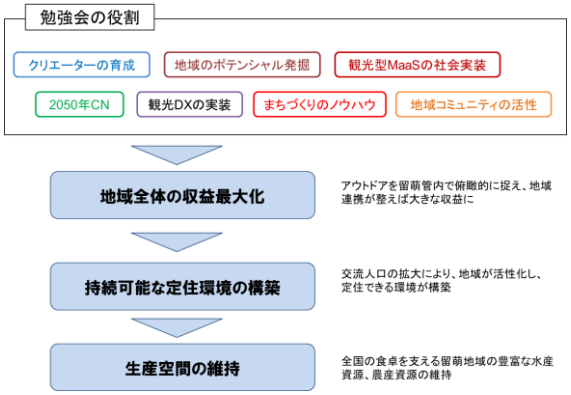

図-2　留萌地域ツーリズム勉強会の目的

2. 留萌地域ツーリズム勉強会

(1) 概要

勉強会は、地域の魅力を観光資源として活かすことで、交流人口の拡大や地域活性化、地域全体の収益最大化を目指し、それが持続可能な定住環境の構築、最終的には生産空間の維持につなげることを目的としている。そのため、勉強会では地域のポテンシャル発掘のほか、観光MaaSや観光DXといった先進的な取組や社会情勢に合致したトレンドにも触れながら、地域において観光地域づくりを担う人材の育成に主眼を置いている（図-2）。

KISOU Akira, TANINO Jun, OKAMOTO Junichi

ツーリズム勉強会の構成員は、留萌地域の行政職員、観光協会、地域おこし協力隊、観光事業者等、各市町村の観光や地域活性化に取り組んでいる様々なメンバーで構成している。有識者として、石田眞二教授（北海道科学大学副学長）が座長として参加、留萌開発建設部が事務局を担っている。

勉強会の進め方は、専門家からの講演やワークショップによる座学のほか、現地視察など実践的なものを取り入れながら、参加者全員が車座となり留萌地域の観光の考察を進めたり、地域活性化に向けたアイデアを出し合ったりできる自由な場づくりを目指した。

(2) ツーリズム勉強会の開催経緯

第 1 回から第 11 回までのツーリズム勉強会の開催経緯を**写真 -1** および**表-1**に記す。第 1 回及び第 2 回では、SNSや GIS データを活用した最新の観光動向分析から留萌地域における観光の現状把握等を行った。第 3 回では、ナビタイムジャパン等の専門家に講演していただき、知見を吸収しながら留萌地域における観光地域づくりについてのアイデアを蓄積した。

第 4 回では、サイクルツーリズムをテーマとし、増毛町をフィールドにサイクルツーリズムを活用した観光地域づくりの実践を進めていくことをが方向づけられた。この背景として、「北海道総合開発計画」（平成 28 年 3 月閣議決定）にて、北海道の特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」の形成を目指すことが位置付けられたことや、増毛町が「北海道のサイクルツーリズム推進」のサイクルルートである「石狩北部・増毛サイクルルート」に参画した初年度であったことにある。その後、第5回から第8回の勉強会を経て、増毛町のサイクルツーリズムを成果としてまとめ、令和4年12月に勉強会から増毛町に手交した。増毛町のサイクルツーリズムについての詳細は後述する。

第9回からは、留萌市を中心に留萌地域全体でアウトドア観光を推進する機運が高まったことから、アドベンチャートラベル（AT）をテーマに勉強会を開催している。ATの詳細は後述する。

写真-1　留萌地域ツーリズム勉強会の開催状況
（左：第1回羽幌町、右：第4回留萌市）

3. 増毛町のサイクルツーリズム

増毛町が「北海道のサイクルルートである「石狩北部・増毛サイクルルート」の一部を形成（図-3）していることは前章で説明した。このことから、増毛町のサイクルツーリズムをテーマに、「石狩北部・増毛サイクルルート」の地域ルートとするべく増毛町内の周遊ルートの磨き上げを中心的に取り扱うこととした。次項にその手順を記す。

表-1　留萌地域ツーリズム勉強会の開催経緯

開催概要			テーマ/勉強会の内容
第1回	H31 2/13	羽幌町	**【留萌地域の魅力】** SNS分析から、留萌の地域資源がどのように捉えられているか
第2回	H31 2/26	苫前町	**【留萌地域の魅力と課題】** 留萌地域のドライブ観光客の行動分析から、インバウンド誘致に向けたアイディア出し
第3回	R元 8/21	初山別村	**【ツーリズムを活用した地域活性化】** これからの観光のあり方とインバウンドによるドライブ観光 （ナビタイムジャパン） るもい地域での地域活性化に向けて （株式会社ピーアールセンター）
第4回	R2. 2/6	増毛町	**【留萌地域でのサイクルツーリズム推進】** ・地域づくりとサイクリング （諏訪湖八ヶ岳自転車活用推進協議会） ・増毛町での観光地域づくりの取組について （増毛町観光協会）
第5回	R2. 9/4	増毛町	**【増毛町のサイクルツーリズム推進】** ・増毛町内を自転車で試走 ・走行環境・受入環境・情報発信の課題の洗い出し ⇒増毛町HPで、サイクルマップの更新版を公表（R3.2 ）
第6回	R3 11/1	増毛町	**【増毛町のサイクルツーリズム推進】** ・増毛町サイクルルートマップ検証のための現地試走 ・マップの使い勝手についてのワークショップ
第7回	R4 3/23	増毛町	**【増毛町のサイクルツーリズム推進】** ・自転車を活用した観光地域づくりの事例紹介 （原文宏氏　シーニックバイウェイ支援センター理事） ・増毛町サイクルツーリズム取組メニューの検討
第8回	R4 8/23	増毛町	**【増毛町のサイクルツーリズム推進】** ・カラーユニバーサルデザイン　色覚の多様性とCUD （北名 由美子 氏　NPO法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構理事） ⇒サイクルルートマップに反映 ・勉強会の成果とりまとめ 「『留萌地域ツーリズム勉強会における成果と期待～増毛町のサイクルツーリズムの推進に向けて～』 ・サイクルルートマップの更新 ⇒R3.2 にHP更新したマップの二度目の更新
第9回	R4 12/5	留萌市	**【アドベンチャートラベル】** ・アドベンチャートラベルについて （ロバート・トムソン北星学園大学准教授） ・留萌地域のアドベンチャートラベル（AT）の要素の抽出
第10回	R5 10/20	羽幌町	**【アドベンチャートラベル】** ・留萌地域アドベンチャートラベル開発ワークショップ ※グラフィックレコーディングによる見える化
第11回	R6 2/16 予定	羽幌町	**【アドベンチャートラベル】** 第10回勉強会で企画したAT要素をワークショップ形式でさらに深化

図-3　北海道サイクルツーリズム推進のサイクルルート

(1) サイクルマップ（第１版）の作成

令和2年9月に開催した第5回勉強会において、増毛町内を自転車やバスで視察し、走行環境・受入環境・情報発信についての課題をワークショップ形式で洗い出し、意識の共有を図った（写真-2，3）。

また、試走会の結果を踏まえ、増毛町内をポタリングするためのサイクルマップを令和3年2月に作成し、増毛町のHPで公開した（図-4）。

写真-2　試走会の様子

写真-3　意見交換会の様子

図-4　増毛町サイクルマップ（第１版）

(2) サイクルマップ（第１版）の検証

令和3年11月に開催した第6回勉強会は、作成したサイクルマップ（第1版）を実際に使いながら、増毛町内を自転車で周遊した。周遊する際は先導ガイドを設けず、サイクルマップを手掛かりに、自力でモデルルートを走行し、所定の時間までに到着する形で行い、マップの使い勝手を検証した（写真-4，5）

写真-4　試走調査の様子

写真-5　ワークショップの様子

(3) 学識者の講演

勉強会では、増毛町のサイクルツーリズムを推進するために、学識者の講演を行った（**写真-6**）。

令和4年3月に開催した第7回勉強会では、自転車を活用した観光地域づくりの事例紹介をシーニックバイウェイ支援センター理事の原氏に講演いただき、増毛町にとって最適なサイクルツーリズムを検討するための知見を得た。

令和4年9月に開催した第8回勉強会では、カラーユニバーサルデザインについて、NPO法人 北海道カラーユニバーサルデザイン機構理事の北名氏に講演いただいた。カラーユニバーサルデザインとは、色の見え方が一般と異なる人にも情報がきちんと伝わるよう、色使いに配慮したユニバーサルデザインを指すものである。講演で得た知見を踏まえ、様々な色を使っているサイクルマップ（第1版）を色覚障がいのある方でも認識可能なものに更新した（**図-5**）。

写真-6　学識者による講演
（左：第７回増毛町、右：第８回増毛町）

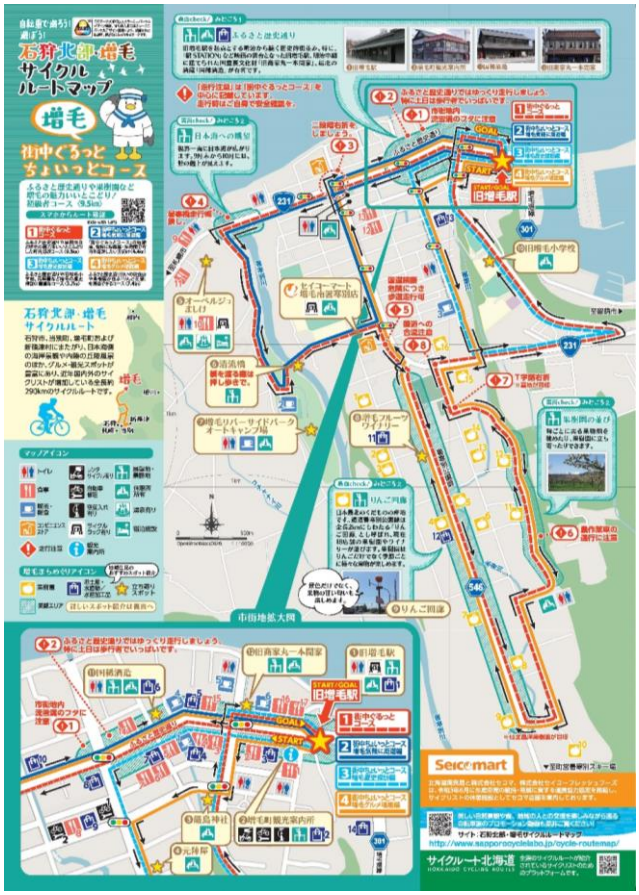

図-5　増毛町サイクルマップ（第２版）

(4) 勉強会の成果の手交

第5回～第8回勉強会で検討した結果を「留萌地域ツーリズム勉強会における成果と期待～増毛町のサイクルツーリズムの推進に向けて」としてまとめ、令和4年12月にツーリズム勉強会から増毛町へ報告した。報告は、勉強会の座長である石田教授から堀増毛町長へと直接手交された（**写真-7**）。

また、同年に「北海道サイクルルート連携協議会」の有識者で構成される「アドバイザリー会議」による「石狩北部・増毛ルート」の現地視察が行われた（**写真-8**）。現地視察は勉強会で設定した町内周遊ルートをポタリングするもので、有識者である北見工業大学髙橋教授から「増毛町内は歴史的建造物、果樹園、海、幅広い層が楽しめる魅力あるポテンシャルの高いルート」、「果樹園のフルーツや海の潮の香りが楽しめ、他にはないルート」、東京工業大学屋井副学長から「無電柱化とサイクルを融合した空間に期待」、元サイクルスポーツ編集長でサイクルツーリズム研究委員会顧問の宮内氏から「果樹園、国稀酒造に代表される歴史的建物、そして無電中化。ポタリングするには良い場所である」と、いずれも高い評価や期待をいただいた。

写真-7　増毛町への勉強会成果の手交

写真-8　北海道サイクルルート連携協議会
アドバイザリー会議現地視察の様子
（上：ふるさと歴史通り、下：果樹園沿線）

KISOU Akira, TANINO Jun, OKAMOTO Junichi

4. アドベンチャートラベル（AT）

アドベンチャートラベル（AT）とはアクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上を含む旅行形態と定義される（図-6）。欧米・オーストラリアを中心に富裕層人気が高まり、地域における経済効果も大きいことから、北海道観光の新たな柱の一つとして、各地で商品造成や磨き上げ、ガイドの育成などが取り組まれている。周知の通り令和5年9月11日～14日にAdventure Travel World Summit（ATWS）が開催され、北海道のATは世界中の旅行業界から改めて魅力的な市場として注目を集めた。会期前中後には旅行バイヤーがATを体験するツアーも催されたが、留萌地域はこれらのツアー開催の対象地域から漏れた。したがって、道内におけるこの地域のATの現在地としては、後塵を拝しているといった現状だと言える。

一方、留萌地域では、留萌市を中心に大手アウトドアメーカーのモンベルと連携し、アウトドア観光の開発に取り組んでいる（図-7）。そこで、留萌地域のアウトドア観光推進を後押しするため、令和4年12月に開催した第9回勉強会から、ツーリズム勉強会のテーマをアドベンチャートラベルとした。アウトドア市場としてある種“未開の地”である、留萌地域の魅力を最大限発揮できるよう、観光資源の発掘をATの要素に照らし合わせながら行っている。次項にその手順を記す。

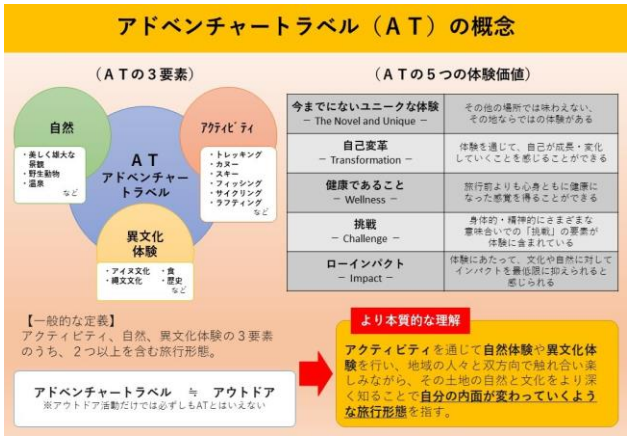

図-6　アドベンチャートラベル（AT）の概念

出典：北海道ホームページ（北海道のオープンデータを利用）

図-7　留萌地域でアウトドアフィールド開発のうごき

写真-9　学識者による講演

(1) 学識者の講演からスタート

アドベンチャートラベル（AT）を勉強会のテーマに設定するにあたり、まずは参加者によるATの共通理解を得るため、令和4年12月に開催した第9回勉強会では、ロバート・トムソン氏（北星学園大学准教授）を講師として招き、アドベンチャーツーリストの思考や心理学を学んだ（写真-9）。氏は、任意団体「Hokkaido Wilds. org」[注1)] の設立者として、自身も登山や自転車、カヌーなど様々なアウトドア・アクティビティの熟練者である。例えば、スケートボードによる最長の旅というギネス世界記録を保持している。また、社会心理学に精通し、アドベンチャーツーリストの選好や思考を研究している。

当日は氏から上述のアドベンチャートラベルの定義に加え、ATに必要不可欠な要素が指摘された。それは、その地域ならではの風土や暮らしぶりのような“ストーリー”に裏打ちされたものが、アドベンチャートラベルの勘所だということであった。

(2) アドベンチャートラベルの開発

a) ワークショップ

令和5年10月に開催した第10回勉強会では、第9回勉強会にてロバート・トムソン氏から強調された、留萌地域の暮らしぶりをアドベンチャートラベル（AT）に反映させるワークショップを行った。勉強会参加者は、留萌管内で生まれ育った方も居たり、赴任先として現在留萌管内に住んでいる方など、多種多様であり、さまざまな思い入れや暮らしのストーリーを持っている。

そこで、そのストーリーこそが留萌地域で暮らす中で感じた地域への心象や経験・体験等であり、暮らしぶりそのものであると考えた。当日の進行手順は、参加者からエピソード付きの自己紹介をしていただき、ワークショップ形式で、その内容を参加者全員で想いの共有や意見交換を行い、ATアイディアの創出につなげた。

b) グラフィックレコーディングの活用

ATアイディアをエピソード付きの自己紹介形式で創出することを前項で説明した。その際に配慮したこととして、参加者の語りを丁寧に記録することが重要と考えた。なぜなら、その語りは暮らしぶりであり、自身の思

い出であったり、地域への愛着であったり、時には生き様でもある。そのため、この語りの質感や温度感までもが記録されなければならないと考えた。そのため、従前の文字による議事録だけでなく、言外のメッセージの記述も行えるよう新たな手法としてグラフィックレコーディングを導入した。その様子を**写真-10**、**写真-11**に示す。

グラフィックレコーディングとは、数年前から関連書籍が多数出版されており、セミナーなどでも人気を博している。絵や図形などのグラフィックを用いて、リアルタイムに思考を“見える化”する技術であり、情報共有のしやすさや、参加意識が高まる、創造性が高まるといった利点があると言われている。上述の参加者たちの言外のメッセージを丁寧にかつ正確に把握・収集するための手法として試行的に導入した。

また、先進的な会議手法を導入することで、勉強会に参加する動機付けになることや、新しい会議手法を勉強会参加者に紹介し、実際に体験してもらうことで観光地域づくりの人材育成を図る狙いもあった（**図-8～10**）。

写真-10　第10回勉強会の様子

写真-11　第10回勉強会の様子
（レコーディングを用いたグループ発表）

図-8　グラフィックレコーディングによるイラスト
（留萌北部のストーリー）

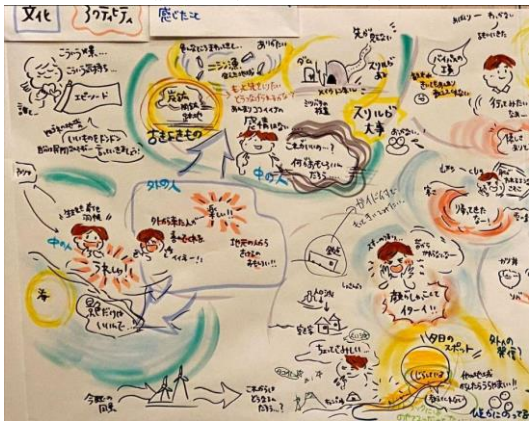

図-9　グラフィックレコーディングによるイラスト
（留萌中部のストーリー）

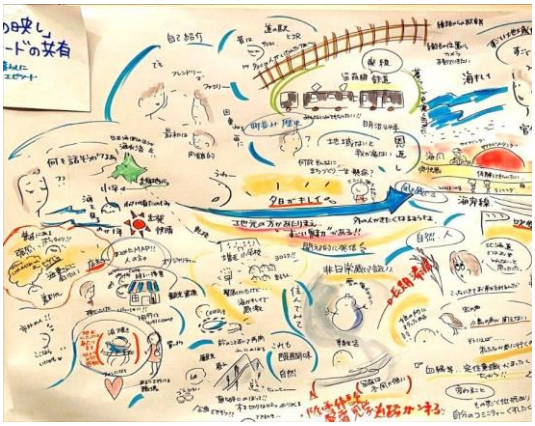

図-10　グラフィックレコーディングによるイラスト
（留萌南部のストーリー）

5.　おわりに

本稿では、留萌地域ツーリズム勉強会の取組を紹介した。今後、現在のテーマであるアドベンチャートラベル（AT）をワークショップ形式で深化させながら、ATの一部（アクティビティや文化体験等）を試行として実装させることを想定している。

実装を通じてATの概念をこの地域にも浸透させていくとともに、ATを造成するノウハウも同時に浸透させていきたい。

また、将来的には、熟度の高まりを受け、ATを成果としてとりまとめ、地域の観光団体へ手交することも想定している。手交先の観光団体にアウトドア観光商品として活用いただくことで、この地域のポテンシャルをより多くの方に体感いただけることを期待する。

注1）北海道やその周辺のアウトドア情報を英語で発信し、日本国内外の英語話者に情報を十分に揃った上で素晴らしいアウトドアを楽しんでもらうことを目的に平成30年11月に設立